

『漢語大詞典』には、「茅草名」と説明し、白居易の「代書詩一百韻寄微之」の「官舍黄茅屋、人家苦竹籬」の句の用例、および李時珍の『本草綱目』「草一・白茅」の「茅有白茅、菅茅、黄茅、香茅、芭茅数種……黄茅似菅茅、而茎上開葉、茎下有白粉、根頭有黄毛、根亦短而細硬無節、秋深開花穗如菅。可爲索綯。古名黄菅」の一文を引く。

192 ○ 荒荒…うすくらいさま。暗淡たるさま。

杜甫の「漫成詩」に「野日荒荒白、春流浪浪清。」[注]王洙曰、「云茫茫」の句が見える。

『漢語大詞典』では「①驚擾貌。荒、通「慌」と説明し、「當初只爲五代時分、天下荒荒離亂、朝屬梁而暮屬晋、干戈不息」の用例を、また「②黯淡淡茫茫貌」と説明し、さきの、杜甫の「漫成詩」の一句を引く。ここでは「②」の意を採る。

○ 碧海…あおうなばら。滄海。

『海内十洲記』「扶桑在東海之東岸、岸直、陸行登岸一萬里、東復有碧海、海廣狹浩汗與東海等、水既不鹹苦、正作碧色甘香味美」が、また隋煬帝の「望海詩」に「碧海雖欣矚、金臺空有聞」が、また薛道衡の「從駕天池應詔詩」に「駕龜臨碧海、按驥踐瑤池」が、また盧照鄰の「長安古意」に「節物風光不相待、桑田碧海須臾改」の用例が見える。

『菅家文章』「256 遊覽偶吟」にも「鳥出樊籠翅不傷、青山碧海任低昂」の句が見える。

○ 塙 …①廟や宮殿の内側と外側の垣との間の空地。②城郭に沿った空地。川沿いの空地。

▼ここでは謫居のある太宰府の地を「西海のほとり」に見立てた表現。

